

②ポスター・パンフレット・チラシ等について

例)	タイトル	発行回数	掲示／常設場所
	[ポスター]	[月 1 回]	[LL 専有掲示板]
	タイトル	発行回数	掲示／常設場所
	[]	[]	[]

③口頭による広報活動について（入学時／学期第 1 回授業時等）

例)	実施期間	回 数	広報補助資料
	[学期始め]	[年 2 回]	[PR ビデオ・スライド・プリント]
	実施期間	回 数	広報補助資料
	[]	[]	[]

④その他ありましたら具体的にお書きください。

4. LL 自習の広報内容についておたずねします。（複数回答可）

- ☐ LL 自習の曜日／時間帯 ☐ LL 自習についてのアドバイス
☐ 自習／教材紹介 ☐ LL 自習全般についての Q & A
☐ 新着教材紹介 ☐ LL 自習利用状況（月間ランキング等）

その他ありましたら具体的にお書きください。

5. LL 自習についての広報活動は、どの部／課（例えば、外国語センター・LL 事務室・英文科研究室・教務課等）を中心に、何人ぐらいの方が担当していますか。

部・課 [] 人数 約 [] 人

6. その他、LL 自習についての独自の広報活動があればお書きください。

LL自習活動の活性化へ向けて

平成7年4月から9月までのLL自習月間利用のべ人数をご回答ください。

4 月 () 7 月 ()

5月 () 8月 ()

6月 () 9月 ()

7. 近い将来LL自習を開始する予定はありますか。

() はい 〈はい〉とご回答の方は以下の質問に続けてご回答下さい。

() いいえ 〈いいえ〉とご回答の方は、8.へ進んでください。

①予定する学習室数及び予定する総収容人数について

例) 学習室数 [2] 総収容人数 [30] 人

学習室数 [] 総収容人数 [] 人

②利用時間帯について

() 昼休み () LL教室の空き時間

() 放課後 () 学習室の開室時間

() 長期休暇期間

③LL自習で利用できる教材の種類についておたずねします。(複数回答可)

() カセットテープ

() ビデオテープ

() CD

() LD

() 衛星放送

() 有線放送

() コンピュータソフト

その他 ()

8. LL自習についてのご意見をお聞かせ下さい。

II. 広報活動（PR）についてのアンケート

ここでの広報活動（PR）とは、学習者の学習意欲を促すことを目的とした活動を意味します。該当するものに○をつけるか、空欄に記入して下さい。

1. あなたの学校では、LL自習についての広報活動を行っていますか。

() はい 〈はい〉とご回答の方は、3. 以下の質問に進んでください。

() いいえ 〈いいえ〉とご回答の方は、2. の質問に進んで下さい。

2. 理由がありましたらお書きください。

3. LL自習については、どのような広報活動を行っていますか。代表的なものを下にあげますので、該当する項目に記入してください。

①定期刊行物について（学校新聞・LLニュース・テープリスト・LLのしおり等）

例) タイトル	発行回数	配布の対象	常設場所
---------	------	-------	------

〔LLニュース〕 〔年4回〕 〔全学生・全教職員及び他の教育機関〕 〔LL事務室カウンター〕

タイトル	発行回数	配布の対象	常設場所
------	------	-------	------

[] [] [] []

Appendix

I. LL自習についてのアンケート

ここでのLL自習／実習とは、一斉授業以外の任意の個別学習を指します。(以下LL自習とする)

該当するものに○をつけるか、空欄に記入してください。

1. あなたの学校ではLL自習時間を設けていますか。

() はい 〈はい〉とご回答の方は、2. 以下の質問に進んでください。

() いいえ 〈いいえ〉とご回答の方は、7. 以下の質問に進んでください。

2. LL自習に参加できる対象者についておたずねします。

全学部学生数 約()人

学部学生数 約()人

教職員数 約()人

3. LL自習の形態についておたずねします。(複数回答可)

①使用学習室の有無について

() LL自習のための学習室がある

() LL教室の空き時間を利用する

②学習室数及び総収容人数について

例)	学習室数 [2]	総収容人数 [30] 人
	学習室数 []	総収容人数 [] 人

③利用時間帯について

() 昼休み () LL教室の空き時間

() 放課後 () 学習室の開室時間

() 長期休暇期間

4. LL自習で利用できる教材の種類についておたずねします。(複数回答可)

() カセットテープ

() ビデオテープ

() CD

() LD

() 衛星放送

() 有線放送

() コンピュータソフト

その他()

5. LL自習の利用者へのオリエンテーションについておたずねします。(複数回答可)

() 定期的に行っている

() 必要に応じて行っている

() 個別に行っている

() 一定の人数が集まるごとに行っている

() 行っていない

その他()

6. LL自習利用状況についておたずねします。

参考文献

- 東 洋、他（編）（1979）
『新教育の事典』（平凡社）
- Bruner, J.S.（1972）
『教育の適切性』（訳 平光 昭久 明治図書）
- Carroll, John B.（1972）
Lectures on English Language Testing and Teaching, Tokyo: Taishukan
（ジョンB.キャロル著 大学英語教育学会編 訳注『英語の評価と教授』大修館書店）
- 金谷 憲（1996）
「こんな読みものがほしい」
『現代英語教育 9月号』pp.6-8
- 九州LL研究会（1993）
「学習者は何を求めているか——魅力あるLL自習を目指して」
『SONY LL 通信』Vol.170（pp.16-18）, Vol.171（pp.18-21）
- 日本能率協会（1984）
『広告の基本——企画から広告効果測定まで』（日本能率協会マネジメントセンター）
- 辰野千寿（1981）
『学習指導の心理学』（大日本図書）
- 田上優子（1995）
「英語教育における英語学力と学習意欲の関係についての調査研究——TOEIC 模擬試験とアンケートを用いての一考察——」
『文芸と思想』第59号 pp.91-108（福岡女子大学文学部）

り自習の広報も可能であることがわかった。

LL自習を活性化するための広報活動の短期的目標としては、学生のニーズに応じた自習教材の充実をはかりながら、広報活動をまずは継続していくことが挙げられる。

次に、中期的な目標としては短期的なそれをふまえた上で、学生の声を広報によって反映させながらLL自習を推進していくことが必要といえる。継続しておこなうスタッフの広報に関するそのような努力に学生が多少なりとも興味を示し反応するならば、次第に利用者数は増加してゆくのではないか。また、そのこと自体が自習に対する他の学生の motivation を高めるよい広報活動ともなり得るだろう。

30校中20校が個別自習室を設けてLL自習の効果的運用をおこなっていることから考えると、長期的には個別学習室の設置および専任スタッフの確保という理想的な教育環境の整備と充実にむけての努力が望まれるということが今回のアンケートの集計結果からいえることである。

今回アンケートにご協力いただいた30校ならびに本研究に際して終始ご助言下さいました泉マス子先生（西南学院大学）にこの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、アンケートを分担集計して下さった桜木妙枝氏（福岡女学院短期大学）、佐伯敦子氏（筑紫女学園短期大学）、田村忠子氏（朝日無線株）に感謝致します。

注1 (1)目的、目標を知らせる方法、(2)成功感に訴える方法、(3)学習の結果を知らせる方法、(4)賞罰を与える方法、(5)競争させる方法を挙げている。

注2 Appendix 参照

注3 アンケート協力校は、青山学院大学、関東学院大学、津田塾大学、西南学院大学、南山大学を含めた全30校である。

注4 テープライブラリー形態とは、LL備品や学習者自身の録音済みテープを利用してLLブース内で自由に学習する自習形態のことである。

注5 九州LL研究会（1993）では、アンケートにより学生の四技能の到達目標を調査し、短大、大学レベルの自習教材には「英語検定2級レベル」を中心に各教育機関の専攻等に応じて難易度に幅をもたせた選択が可能であると提案した。

※これは、1996年6月のLLA九州支部大会において口頭発表したものに加筆修正をしたものである。

3. 望ましいLL自習の広報（案）

アンケートを集計し各教育機関の広報物を参照することにより「理想的な短期的・中期的広報試案」を作成してみた。

表3 理想的な短・中期的広報案

実施期間 広報媒体	定 期			不 定 期
	年 1 回	年 2 回	年 3 回以上	
	4 月	学期始め	LL主催行事時期	
			資格試験時	
			長期休暇前	
口頭 (PRビデオ)	LL利用の呼びかけ (全学オリエンテーション)		LL主催行事のプログラム 教材、参考図書紹介 教材の活用法 海外研修事前資料 関連記事の掲載	LLや語学の授業時に LL利用を呼びかける
ポスター	LL利用案内 (利用方法、利用時間等)			テーブ利用人気ベスト10
パンフレット チラシ	LL利用案内 教材リスト 利用状況 年間利用ベスト10			利用者の声 (アンケート等) 新着教材紹介
定期刊行物	利用者の声 特集記事			Q & A
便覧・広報誌	LL利用の呼びかけ			

表3の縦には「広報媒体」を、横には「実施時期」を設定した。表の下へいくほど広報内容が多様化し、表の右へいくほど、広報頻度が高まることになる。最も容易で手近な広報活動は、教員による口頭でのLL利用の呼びかけであろう。学習者にはどのような視覚情報よりも「教員からのひとこと」がやはり大きな動機づけとなりうることから、まず新学期の口頭によるPRが効果的といえる。

次の段階で、印刷物の掲示もしくは配布という方法がとられるべきであろう。その際には、各教育機関のオリジナリティを生かして、イラストや写真を適宜盛り込んだ広報が考えられる。また、パンフレット・チラシには絶えず新しい情報の発信元となるような記事の新鮮さが求められている。そのためには、新着教材情報や月間利用報告などを定期的に提供するのにも一案であろう。

Ⅳ. 将来への展望

今回のアンケート調査の結果として、専任スタッフの存在は「自習」の運用の絶対条件ではなく、学内でのLLの認知度が高ければ関係部署との協力によ

ニューズレターの内容は、①学習室を利用して効果的な学習を行った学生の体験談②教材紹介のコーナー③タイトルだけでなく教材や参考図書の表紙のコピーを掲載④語学資格試験用の教材に隣接して試験の日程表，などのきめ細やかな情報を盛り込んで，学生向けに非常に説得力のあるPRをしている。

例3 ニューズレターに特集記事を組み，記事の新鮮さで学生にアピールしている例もある。例えば「AVライブラリー設備とレンタルビデオショップとの相違点」を記事の特集として、①オーディオ教材の充実②自己の音声を録音することができる，というLL本来の目的の他に③隣の人も勉強している④わからないことはカウンターで質問できる等が書かれている。このニューズレターを通して，LLは学習者－学習者，学習者－教員，学習者－LLスタッフが効果的にインターアクトする「学習施設」であるということが強調されている。

また，「著作権をご存じですか？」というテーマを取り上げているものもある。(図3)

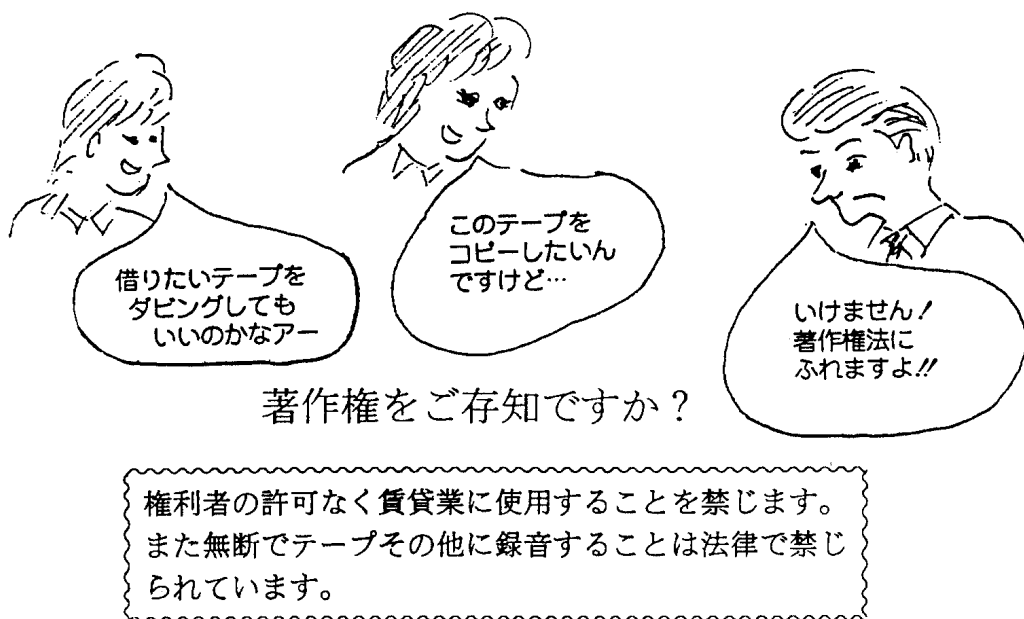


図3

現在，家庭内外で容易に書類のコピーやテープの複製が可能となってきたことから，学習者は簡単にコピーに頼る傾向があるが，具体的にそこで「私たちが，オーディオテープ・CDを録音する行為，また友人にそのテープを貸す行為は，すでに著作権法にふれているのです。」という文面をのせ，著作権法について学生の問題意識を高める機会を与えている。

時には，このようなスタッフの研修や講習会などで得られた知識を企画を設定することにより，広報の中で学生にフィードバックすることも適切な教育的配慮ではないかと思われる。

～ おすすめ教材 ～

《ビデオ教材》 ソフト番号▶M0698



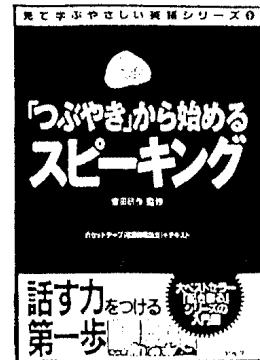
おなじみ、ルパン3世のストーリーを追って、生き生き英語表現を身につけよう!!

《オーディオ教材》 ソフト番号▶AO509

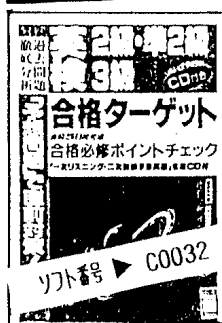
会話に必要なのは、自己表現力。
ちなみに、次の表現を英語で言ってみよう!

- ①「朝には弱いんだよ。」
- ②「朝食は要らないよ。」

② "I'm not a morning person."
① "I skip breakfast."

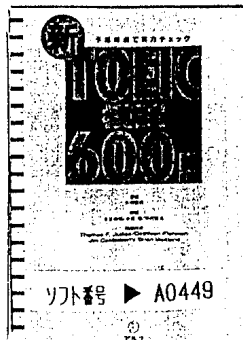


《TESTS》



TOEFL

1996年度 試験日程
6月7日(金)
(申込受付期間
4月22日まで)



ソフト番号 ▶ A0449

英検

1996年度 試験日程
第一回 一次
6月16日(日)
(申込受付期間
4月1日～5月20日)
第二回 一次
10月20日(日)
(申込受付期間
4月1日～9月25日)



TOEIC

1996年度 試験日程
第54回
5月26日(日)
(申込受付期間
4月1日～5月1日)

《REFERENCE BOOK》 ソフト番号▶0304



留学したいと思っている人、夢の実現をお手伝いします。

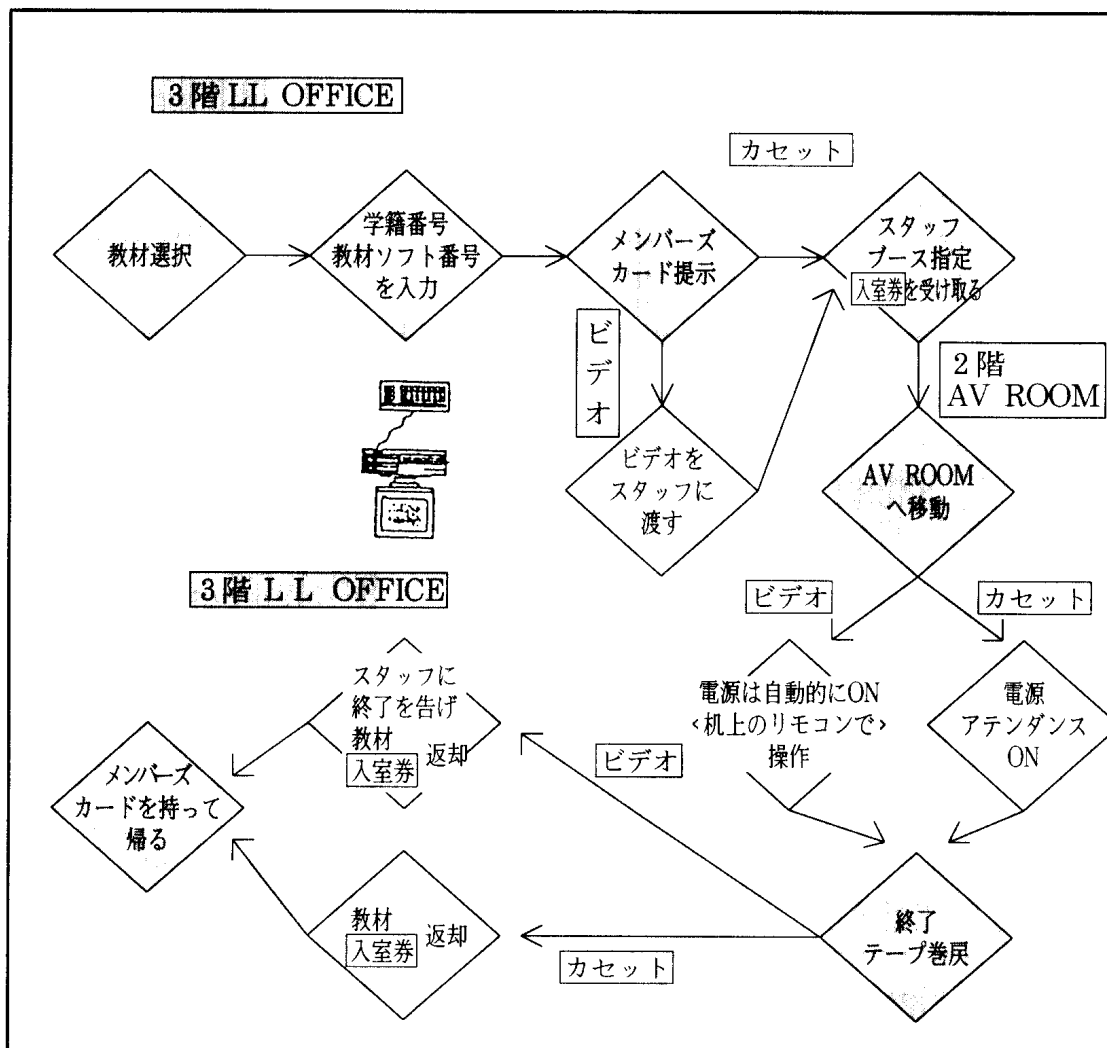
*教材アドバイス、その他詳細は、気軽にLLスタッフに尋ねてください。また、LLの掲示板でも詳しいお知らせをしています。

図 2

利用手帳

- ★ LLメンバーズカードを発行します。
より多くの教材を知ってもらうために、
5回に1回はオススメ教材にもトライ
してみてください。

LL MEMBERS CARD	
DEP	No.
NAME	



- ★ 入室券により、AV ROOMの自動ドアが開き、
指定ブースの電源がはいります。
席を離れる際には、必ず入室券を持って部屋を出て下さい。

AV ROOM は、ビデオ・オーディオ・コンピューター教材を使って、個人、あるいはグループで、自由に学習できる施設です。

~~~~~ 開室時間 ~~~~~

月曜日～金曜日 9:00～16:00

(お昼休み 11:10~12:10を除く)

土 曜 日 9:00~12:00

★受付・返却は LL OFFICE (K-305)にて

~~~~~ こんな教材があります ~~~~~

オーディオ教材……会話・ヒアリング・詩・文学関係・英検・
TOEFL・TOEIC など。

ビデオ教材……語学関係をはじめ、洋画多数！
(英語字幕が出る Caption も設置)

C A I 教材……コンピューターを使って、
英会話・英文法をマスター。音声付き！

英 文 タ イ プ……レッスン機能で指使いの練習ができます。

スピーチトレーナー……パソコンで、あなたの発音・イントネーションを分析します。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 1995年度 学生に人気の教材ベスト3 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ビデオ教材

- | | | |
|---|---------------------|---------|
| ① | BEVERLY HILLS 90210 | [MO443] |
| ② | TWIN PEAKS | [MO377] |
| ③ | PRETTY WOMAN | [MO381] |

オーディオ・CAI・スピーチトレーナー教材

- | | | |
|---|------------------------------------------|---------|
| ① | 完全攻略シリーズTOEFL リスニング大特訓 | [AO278] |
| ② | CAI SPOKEN ENGLISH
〈Essential Course〉 | [CAI01] |
| ③ | スピーチトレーナー母音練習ソフト | [ST001] |

图 1

報にあたっているところでは、口頭によるオリエンテーションが5校、広報誌を利用しているものが3校見られ、徹底した広報で利用促進をおこなっている。

Cグループでは、新学期の口頭オリエンテーションを確実にこなったうえで、①「利用案内」を大学便覧や学部報に掲載する②ポスターや教材リストは掲示のみでニューズレター等の個々への配布はおこなわない方法での広報形態をとっている。

以上のように考察すると、広報に際しては各教育機関でLLの活動内容がどれだけ理解されているかが重要なポイントとなってくるといえる。それをふまえた上で、自習についての広報のあり方を考えるべきであろう。

オリエンテーションを「利用案内」の配布によって代替しているところがあるAグループの例は、即ち学内でのLLの認知度が高くLL運用が円滑におこなわれており、学内一般に評価されていることを証明しているといえる。まずLLを学内によく知ってもらうことが、広報を開始する上での基本条件といえる。

3) 広報内容について

A、B、C 3グループに共通した広報の特徴としては、教材名のリストに限らず新着教材の紹介を載せていることである。情報化社会に育った学習者は、常に新しい情報を求め敏感に反応する傾向があるので、最新の情報を常に提供する必要があることがわかる。このことは、学習者の興味を固定的なものとしてとらえず、彼等の探究心に訴えて新たなる興味の幅を拡げるのにより効果的であるといえる。広報内容に学習のアドバイス、Q & A、その他利用状況を載せることも有効である。また、「利用者の声・利用者へのアンケート・教材の購入希望アンケート」などを広報内容に盛り込む方法で、情報がLLからの一方通行にならないようにフィードバックする工夫がうかがえる。

その他に、学生の関心が比較的高い「資格試験情報」（英検・TOEIC・TOEFL）も試験の実施時期を考慮した広報が可能である。

今回のアンケート回収校の中での広報資料の例としていくつか参照してみる。

例1 初歩的な広報例であるが、「テープライブラリーのお知らせとテープリスト」を1枚の用紙に印刷して、学内に掲示するという方法がある。

例2 例1のような文字情報の他、「AVルーム利用のしおり」（A5版）（図1）のように絵や図表を積極的に用いたり、表紙にイラストや印象的なキャッチコピーをつけたりという視覚に訴える工夫がなされている。色用紙への簡易印刷等も、経費をかけずに行える手近な広報手段である。又、この例では別色用紙でニューズレターも発行している。（図2）

2. LL自習に関する広報活動について

1) 広報担当者について

学習者の動機づけに影響を及ぼす「広報活動（PR）」を実際におこなう部署や担当者数は各教育機関で異なっている。今回はアンケートにご協力いただいた各教育機関の『取り組み方』を比較するために、広報担当者を以下の3グループに大別した。

表2 LL自習に関する広報活動について（アンケート回答30校）

| | 広報活動 | | 広報媒体 | | | | 広報内容 | | | | |
|-------------|------|---|----------------------------------------------------|---------------------------------------|----|------------|----------|----------|--------------|-----|----------|
| | 有 | 無 | 定 期
刊行物 | ポスター
パンフ | 口頭 | 曜 日
時間帯 | 自習
教材 | 新着
教材 | 学習アド
ヴァイス | Q&A | 利用
状況 |
| A (12) | 11 | 1 | ニュースレター6
利用案内5
冊子2
大学広報誌3
大学便覧1
紀要1 | 教材リスト3
新着リスト5
ポスター2
利用ベストテン1 | 2 | 10 | 11 | 10 | 2 | 3 | 5 |
| A Vセンター(7) | 6 | 1 | ニュースレター5 | | 5 | 1 | 5 | 4 | 2 | 2 | 3 |
| B 教 務(2) | 1 | 1 | 利用案内1 | | | 1 | 1 | 1 | | | |
| 研究室(2) | 2 | 0 | 大学広報誌3 | 教材リスト1
ポスター1 | | 2 | 2 | 1 | | | |
| 担当教員(2) | 2 | 0 | 大学便覧1
教材リスト1
(閲覧用) | ポスター1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | | |
| C
無回答(5) | 2 | 3 | | | 2 | | 1 | | 2 | | |

Aグループ：LL専任のスタッフが担当（12校）

Bグループ：AVセンターという名称の下でのスタッフ、教務課職員、
研究室助手などLLとの兼任スタッフが担当（11校）

Cグループ：LL運営委員会などの構成員が交代で担当（2校）

*この項目に無回答（5校）

2) 広報担当グループ別の特徴

Aグループでは、定期刊行物、ニュースレター、パンフレット、チラシなどのさまざまな形態で、多様な機会を利用して広報にあたっている。そのためか口頭によるオリエンテーションは少ないことが特徴としてうかがえる。

Bグループの特徴としては「ニュースレターの発行」があげられる。Aグループのニュースレターの発行回数は平均年1回であるのに対して、Bグループでは年2～4回という発行頻度である。最新の情報を学生に定期的に提供していることを、この発行回数が見せている。さらに、AVセンターのスタッフが広

4) LL自習実施校の抱える問題点について

各々の教育機関から出された意見からLL自習の問題点と課題について挙げてみると次のようになる。

主な検討課題としては、①教材の選択②専任スタッフの必要性③専用自習室の確保④広報の重要性などである。

自習用教材に関しては一斉授業の場合と同じように、学習者と学習者の目的を知ったうえで選択する必要がある。つまり、学習者の目的に合致した教材は学習意欲を喚起するだけでなく、その維持・持続も可能であることから、学生のアンケートなどにより、彼等の興味や学習目的を教材選択に反映させる必要性は大きい。⁵

スタッフの問題として、LLでは多様化する教材に対応するために教材研究はいうまでもなく、さまざまな情報を収集し、それをもとに学習者に的確にアドバイスのできる専任スタッフが理想的には必要となってくる。特にAVセンター内での実務においては、図書館業務と教育経験のある人材の確保と養成が急務というアンケート結果が得られた。

また、一斉授業用に作られたLL教室とは別に、個別学習専用の「自習室」の設置が望まれている。自習室と時間の確保については二つの問題点があげられる。一つは学生の空き時間が確保しにくい点である。特に週五日制の導入が浸透している大学や修業年限の短い短期大学では、学生が時間割上の空き時間を確保しにくい傾向がある。他方、意欲的に自習を確保できたとしても学生の空き時間とLLの空き時間と一致しない場合がある。この問題はスタッフの問題と大きく関係してくるが、理想的には一斉授業用に作られたLL教室とは別に、個人の進度や興味に沿った自習のできる個別学習専用の「自習室」の設置が環境整備の観点から望まれている。アンケートによると、LL開室時間の延長の措置や長期休暇中の開室などで柔軟に運用している例も見られた。

従来から言い尽くされてきたことではあるが、LL自習においてもやはり、ソフトとハードの両面からの充実が理想とされる。実際には各々の教育機関の実情にあった工夫をして、管理運営がなされている。

④の問題点についてアンケートによれば、自習には動機づけ (motivation) が必要であると多くの回答者が考え、そのための取り組みの一つとして本研究の調査目的と同じく「積極的な広報活動の必要性」を挙げた教育機関も多く見られた。

自習室の室数は、全学生数1万人規模の大学でも1室～2室であるが、学習室の収容人数は8人～50人とそれぞれの状況により異なっている。

自習がおこなわれている26校中、自習室の利用時間については限定しているところもあるが、専任スタッフの有無にかかわらず昼休み・放課後に開室しているところもある。また、長期休暇中は利用者数が減少する傾向があるが、26校中5校が自習室を開室している。LLを日常的に利用しているところでは、利用時間帯も学生のニーズを考慮に入れて運用している。

2) 利用教材について

一般的に音声教材に加えて視覚教材の導入が浸透してきている。(自習実施校26校中、カセットテープの利用が25校、CD利用11校、ビデオテープ利用23校、LD利用13校) ディスクは取り扱いの簡便さ、耐用性、省スペースなどが普及の理由として挙げられる。ある四年制大学におけるLL自習室内での利用件数は、視覚教材の利用が3,000件に対して音声教材の利用は1,500件というデータがでている。映像世代といわれる学習者は、自習においても積極的に視覚教材を利用する傾向がある。これは、先行研究の結果である「自習教材にヴィジュアルなものを望む学生像」(前述)を裏付ける数値といえる。

また「世界の問題を即時提供できる教材」として、AVセンターを中心に積極的に衛星放送の導入が進められているようである。(10校で利用) 衛星放送は内容の即時性のみならず英語の多様性を知る教材としても注目されている。さらに、コンピュータを導入した自習形態も広く採用され(9校)、昨今のインターネットの普及により「単なる機械と向き合うだけの」個別学習から「よりインタラクティブでコミュニケーションな」自習が可能となってきている。

その他、CNNやBBCなどの放送を自主教材として編集したビデオテープを準備しているところやワープロソフトやスピーチトレーナー等を用意して個別学習に対応しているところもある。(各1校)

3) LL利用者向けのオリエンテーションについて

利用者へのオリエンテーションをどのようにおこなっているかを調査したところ、定期的の実施したり個別に指導する場合もあるが、結果としては特におこなっていない教育機関が多いことが判明した。専任スタッフのいる場合には「LL利用案内」を配布することでオリエンテーションの代替としているようである。

Ⅱ．研究方法

調査は「LL自習の現状とその広報活動に関するアンケート」（全22項目）を実施する方法でおこなった。²その調査対象は、比較的規模の大きいLLを運営している全国の教育機関30校である。³

アンケートは二部構成とし、前半はLL自習の実施状況（自習時間の設定の有無・学習室の有無・利用時間帯・利用教材・利用者へのオリエンテーションなど）に関する13項目、後半はその広報活動についての9項目とした。回答は複数回答である。

Ⅲ．結果と考察

1. LL自習について

1) 自習時間・学習室・利用時間帯について

アンケート回答校の30校中26校ではテークライブラリー形態⁴を中心とするLL自習がおこなわれている。自習専用の学習室をもつところは30校中20校ある。その20校中2校では、LL教室の空時間も利用して自習をおこなっている。

表1 LL自習について（アンケート 回答30校）

| | | |
|--------------------|--------------------|----|
| 自習時間 | ある | 26 |
| | ない | 4 |
| 学習室（自習室） | 専用 | 20 |
| | 空き時間 | 8 |
| 利用時間帯 | 昼休みに利用 | 4 |
| | 放課後に利用 | 3 |
| | 空き時間利用 | 10 |
| | 開室中利用可 | 20 |
| | 長期休暇中利用可 | 5 |
| 自習利用教材 | カセット | 25 |
| | ビデオ | 23 |
| | C D | 11 |
| | L D | 13 |
| | 衛星放送 | 10 |
| | コンピュータ | 9 |
| 利用者への
オリエンテーション | 定期的におこなう | 6 |
| | 必要な時におこなう | 7 |
| | 個別におこなう | 7 |
| | 特にしない
（利用案内配布等） | 11 |

る必要があるといえる。

先行研究として、全国の高校、短大、大学の学生に「外国語学習のアンケート調査」を実施した結果として、①四技能のうち Writing, Reading の到達目標より Listening, Speaking の到達目標の設定が低くとられていること②外国語学習の「何かを始めたいが何をしてよいのかわからない」多数の学生像が浮き彫りにされたこと③ヴィジュアルな教材を望んでいること、が判明した。さらに、学習者の動機づけにより喚起（回復）された学習意欲を持続し、学習を継続する適切な学習環境として、①LL自習とその広報の必要性②学習者のニーズに即した教材の選択③LLスタッフの確保と育成の三点を提案した。（九州LL研究会（1993））

英語学習におけるLL利用の最大のメリットは、学習者個人個人の音声面を強化することにあるといわれている。学生が掲げる Listening と Speaking の到達目標の設定が低くとられていた先行研究のアンケートの結果は中学、高校の6ケ年の学校教育でこの二技能が重要視されてこなかった事実を証明しているといえる。グローバルな視野をもつ国際社会の一員として、自己発信するために必要なコミュニケーション能力育成の側面からも、それぞれの目的や興味に沿って自分のペースで学習できる点においても、LLでの学習は有効であるといえる。

また、現在市販されている「英語教材」のほとんどは個別学習用であり、だれでも容易に入手できるが、比較的高価なものが多い。従って学習者が自宅学習したり、通学途中にテープを聴くなどの「ながら学習」をおこなったとしても、その集中力には限界があり学習の継続には困難を伴うことが多いのではないだろうか。田上（1995）では TOEIC 模擬試験を用いて英語学力テストをおこない、英語学力と関係がある動機づけは「自主性・積極性」、「英語学習の機会」であるという結果が得られ、個人の能力やペースに応じた個別学習（自習）環境の整備が急務であると論じた。この意味からも既存のLL施設を自習活動を中心としてより活発に利用する必要があるといえる。

本研究は、従来比較的未検討の学習環境の整備という観点からおこなったLL自習とその広報についてのアンケートの調査報告である。調査結果を分析することでLLの効果的な運営方法を見い出すことを目的とする。なお、本研究で用いる「LL自習」とは、一斉授業以外に学習者がLLにおいて個別におこなう学習活動のことである。また「広報活動」とは、いわゆるPRのことを意味する。

LL自習活動の活性化へ向けて

—— 全国30校のアンケートからみた広報の可能性と意義 ——

田 上 優 子

I. はじめに

「動機づけ」とは人間や動物の行動を始発させ、方向づけ、持続させ強化する過程をさす。(東他(1979)) 学習には、学習者がまず興味を示す「動機づけ(motivation)」が重要な要素であると言われているが、持続的な努力を要する言語学習は、ともすれば単調で疲労を伴いがちである。Bruner(1972)は人間には本来、意欲や達成の欲求があるにもかかわらず、何らかの原因でそれが抑圧されていると考え、(学習)意欲は「喚起」するものではなく「回復」されるものと定義づけている。誰にでも備わっているその意欲を授業において呼び起こすためには、多彩な教材の選択やシラバスの工夫により内発的動機((1)好奇心(2)上達意欲(3)モデルとの同一視(4)仲間との相互作用)を刺激する授業展開が可能である。さらに、外国語学習において目的・目標意識を確立することは学習意欲の高揚のためには重要な要素であることから、辰野(1981)のいう外発的動機¹も内発的動機を補強する意味で無視できないといえる。

しかしながら、多様な学習者に対応した動機づけとその持続のための配慮は従来の一斉授業だけで十分におこなわれてきたといえるだろうか。読解授業においても、「生徒の興味に合わせて複数の読み物の中からの「個別選択」や個別のペースによる「読み」、そして情報利用のための「読み」など個々の学生に、時間の長短に関係なく多少とも自分に合った速度で勉強させる「授業の個別化」が必要である(金谷(1996))と提言され始めている。つまり一斉授業を考え直すべき時期にきているといえるのではないだろうか。これはLLを含めた外国語授業全般にも言えることであり、教材が豊富にあっても授業形態に変化をもたせなければ、それが十分に消化されないことを考えると、学習者の動機づけの強化と持続の一方策として一斉授業以外の個別学習形態を重要視す